

# 高田短期大学 介護・福祉研究

---

第 4 号

福 田 洋 子

高田短期大学介護福祉研究センター

平成 30 年 3 月



研究論文

# 介護、社会福祉士養成校の学生及び介護職を目指す社会人経験のある学生のおむつ装着体験の比較

福 田 洋 子

## 1. はじめに

超高齢社会における介護の課題は、2025年問題<sup>1)</sup>として取り上げられ、様々な方向から検討されている。高齢者の生活課題の一つに、排泄の問題がある。高齢になると、排尿や排便機能の低下により尿漏れ、便秘、下痢など人には言えない悩みが大きくなる。さらに、認知機能の低下から、排泄の後始末を1人でできない状況も出てくる。日常生活で、漏らすことが多くなるとおむつの使用を考えなければならなくなる。排泄は人の手を借りず、できるだけおむつに頼らずトイレで行いたいと誰もが願うものであるが、要介護度が高くなると、おむつ使用や介護者の手を借りなくてはならなくなる状況が出てくる。ゆえに高齢者施設では、要介護度の高い高齢者に、気持ちよく排泄していただくための取り組みがなされている。倉輔ら<sup>2)</sup>は、排泄ケアにおける介護職者の認識調査から、「おむつを外すことにより、行動が多くなり、活発になった。」とおむつ外しによる老人の快適さを明らかにしている。また、山本ら<sup>3)</sup>は、看護学生のおむつ装着体験から、おむつを装着している高齢者への援助について、「自尊心を傷つけない対応」「皮膚の観察」等9項目を捉えることができたとして学生の学びを報告している。介護職者は、要介護者が、安心して排泄できるような支援を提供していくために、排泄の問題を抱える利用者の気持ちに寄り添い、不安や不快感を軽減するための排泄ケアの方向を探る必要がある。大人になってからおむつを使用し排泄介助を受けることは、人間の尊厳を守ることや羞恥心への配慮も考えて実施しなければならない。これまでにも、より良い排泄ケアを実施するための学びとして、多くのおむつ装着体験の研究報告がされている。しかし、介護福祉士養成校の学生と社会福祉士養成校の学生、社会人経験のある介護福祉士を目指す学生のおむつ装着体験の比較検討されたものは見当たらない。本研究は、羞恥心や尊厳に配慮した排泄ケアに繋げるための意識教育として、介護福祉士養成校、社会福祉士養成校の学生及び社会人経験のある学生のおむつ装着体験を比較検討し、体験から得られた結果を介護教育への一助とするものである。

## 2. 調査の概要

### (1) 対 象

おむつ装着経験のある介護福祉士養成校の2年生14名（以下Aという）、社会福祉士養成校の1年生17名（以下Oという）と介護職に就くために学んでいる社会人経験のある学生34名（以下Mという）を対象とした。

## (2) 調査期間・方法

2017年7月～9月にかけて質問紙調査を実施した。

調査方法は無記名自記式質問紙調査で、おむつ装着体験のある対象者に実施したが、おむつ装着体験後、随時実施した。質問紙は、調査後、学生の場合は直接回収し、社会人経験のある学生の場合は、担当者を通じて配布され、回答後は同責任者によって回収された。

## (3) 調査内容・分析方法

調査内容は、属性（年代、性別）及びおむつ装着経験に関する質問27項目を設定し、単純集計した。また、自由記述においては、装着時の気持ちとおむつ装着者の支援に繋がる意識についての意見を求め、回答対象者A, O, Mの回答を対比して記載した。質問内容は、先行研究<sup>2) 3)</sup>を参考に筆者が独自に作成した。

## 3. 倫理的配慮

対象者には研究の意義、目的を説明し、回答は無記名で任意であり個人が特定されない、データは本研究以外に使用しないことを口頭にて説明し同意を得られた協力者のみ調査を実施した。

表1 A・O・M三者比較表

対 象		A		O		M	
質問内容	項 目	14名	100%	17名	100%	38名	100%
1. 性別	男性	3	21%	11	65%	23	61%
	女性	11	79%	6	35%	15	39%
2. 年齢	①18歳代			13	76%		
	②19歳代	8	61%	3	18%		
	③20歳代	4	31%	1	6%	4	11%
	④30歳代	1	8%			7	18%
	⑥40歳代					12	32%
	⑦50歳代					10	26%
	⑧60歳代					5	13%
3. おむつ装着体験回数	①1回	13	93%	16	94%	34	89%
	②2回	1	7%	0	0%	3	8%
	③3回			1	6%	1	3%
	④4回以上						
4. 初めておむつを着けた時おむつへ排泄できたか	①はい	1	7%	9	53%	24	63%
	②いいえ	13	93%	8	47%	14	37%
5. 問4で、いいえと答えた理由	本文参照						
6. 初めておむつを着けた時の装着時間	①すぐ外してしまった	7	50%	1	6%	2	5%
	②5分～9分	5	36%	5	29%	2	5%
	③10分～29分			4	23%	7	19%
	④30分～1時間まで	2	14%	3	18%	3	8%
	⑤1時間～2時間まで			1	6%	6	16%
	⑥2時間以上			2	12%	16	42%
	⑦装着しなかった			0	0	0	0
	⑧その他			1	6%	2	5%
7. おむつをして排泄した時は、排泄はどこでしたか	①横になって寝ながらした	3	22%	1	6%	9	24%
	②部屋で座ってした	0		1	6%	3	8%
	③部屋で立ってした	0		0	0%	3	8%
	④トイレで便器に座ってした	2	14%	7	41%	10	26%
	⑤その他	3	21%	5	29%	9	24%
	⑥無回答	6	43%	2	12%	4	10%
8. 排泄できるようにお腹を押すなどして、出そうと試みたか	①はい	4	29%	5	29%	16	42%
	②いいえ	10	71%	11	65%	21	55%
	③無回答	0	0%	1	6%	1	3%

対 象	A		O		M		
9. おむつ装着体験が2回以上の経験者で排泄できるようになったのは何回目か	①2回目	1	100%		2	100%	
	②3回目	0					
	③4回目以上	0					
10. おむつ装着体験が2回以上ある方で、初めておむつを着けた時と2回目以降ではおむつ装着時に気持ちの変化はあったか	①はい				1	25%	
	②いいえ	1		1	3	75%	
11. 問10の時の気持ちの変化の理由	本文参照						
12. おむつ体験が2回以上ある方で、装着状況はどのように変わったか	①1回目と変わらない	1	100%				
	②1回目よりも長く付けていられた						
	③回数を重ねるうちに慣れてきた			1	100%		
	④おむつを着けて寝てしまった						
	⑤1回目よりも快適だった						
	⑥おむつを着ける事への抵抗感がなくなった						
	⑦装着しなかった						
13. おむつ装着体験は、利用者の気持ちの理解に繋がったか	①はい	10	72%	17	100%	37	97%
	②いいえ	1	7%			1	3%
	③無回答	3	21%				
14. 問13についてあてはまるもの	①パンツの方が良い ②気持ち悪い ③排泄の時は外してほしい ④排泄時は、トイレ誘導してほしい ⑤排泄したらすぐに取り替えてほしい ⑥その他						
15. おむつを装着した時の気持ちの記載	本文参照						
16. おむつ装着時の皮膚の変化はあったか	①あった	0	0%	1	6%	3	8%
	②少しあった	1	7%	6	35%	9	24%
	③なかった	12	86%	9	53%	26	68%
	④無回答	1	7%	1	6%	0	0%
17. 問16で皮膚に変化があったと答えた人、どのような変化があったか	本文参照（複数回答可） ①かゆくなった ②蒸れてしわができ、ふにやふにやした ③湿疹ができた ④赤くなった ⑤またずれようになった ⑥かぶれそうになった ⑦その他						
18. 利用者の尊厳について考える機会になった	①はい	9	64%	16	94%	33	87%
	②いいえ	3	22%	1	6%	3	8%
	③無回答	2	14%	0	0%	2	5%
19. 問18で、「はい」と答えた方、尊厳についてどのようなことを考えたか	本文参照						
20. おむつ装着体験学習は、今後も続けた方が良いか	①はい	7	50%	15	88%	36	95%
	②いいえ	5	36%	1	6%	1	3%
	③無回答	2	14%	1	6%	1	2%
21. 問20の理由	本文参照						
22. おむつ装着体験の課題を出された時の気持ちについて	①勉強になるので体験したい	0	0%	2	15%	7	18%
	②高齢者の気持ちがかかるかもしれないと思った	3	23%	7	50%	8	21%
	③高齢者の気持ちを理解するため仕方がない	0	0%	2	14%	8	21%
	④課題なので仕方がない	2	15%	3	23%	5	21%
	⑤絶対に体験したくない	4	31%	0	0%	1	3%
	⑥複数回答	1	8%	2	14%	6	16%
	⑦無回答	3	23%	1	7%	0	0
23. おむつ装着体験は、高齢者のおむつ装着に関する意識が変わったか	①はい	9	69%	14	82%	34	92%
	②いいえ	2	16%	1	6%	2	5%
	③無回答	2	15%	2	12%	1	3%
24. 問23のおむつ装着体験したことの意識について	本文参照						
25. おむつ装着体験は、高齢者のおむつ外し支援への理解に繋がったか	①はい	10	77%	16	94%	36	95%
	②いいえ	1	8%	0	0%	2	5%
	③無回答	2	15%	1	6%		
26. おむつに排泄している高齢者が、おむつをはずして排泄できるようにするのは難しいと思うか	①はい	6	46%	12	70%	16	42%
	②いいえ	5	39%	3	18%	18	47%
	③無回答	2	15%	2	12%	4	11%
27. 高齢者のおむつ外し支援のために必要と考えられること	本文参照（複数回答可） ①学生のうちに介護の基礎知識を付けておく必要がある ②学生のうちに基礎技術力をつけておく必要がある ③高齢者の気持ちをもっと理解する必要がある ④おむつ外しという言葉は初めて聞いたので、詳しく学ぶべきだと思う ⑤高齢者のおむつをすることについて何が問題なのかわからない ⑥快適なおむつもあるので、おむつの性能を考えればよいと思う ⑦多職種と話し合って決めるべきだと思う ⑧どんなに忙しくてもトイレにつれていくべきである ⑨介護職員が忙しければ社会福祉士もトイレ介助を助けるべきである ⑩その他						

#### 4. 結果

質問紙調査の集計は、表1のとおりである。

年齢層は、AとOは18歳代から20歳代で、Mは、40歳代が最も多く、次いで50歳代と年齢の高い人が続く、20歳代は4名である。おむつ装着体験は、学生の80%から90%が初めての経験であった。学生で2回の経験があったのは、手術を経験している学生である。社会人経験のある学生の中には、年齢が高いことからか2回から3回目の装着体験もいた。

問4 おむつ装着体験が初めての場合、おむつへの排泄が出来ない学生は、Aが93%、Oが47%、Mが37%であり、Aが突出して高かった。

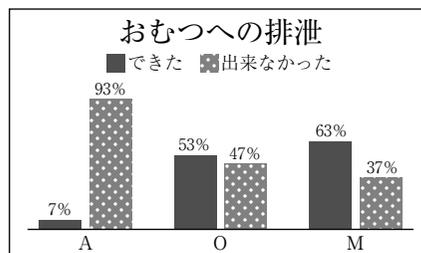


図1 おむつへの排泄

問5 排泄できなかった理由は、以下の通りである（表2参照）。おむつに排泄できないと答えている人は、おむつ装着時間も短く、排泄ができるように試みたかの問いでも「いいえ」と答えていた。装着時間は、Aが①すぐ外してしまった50%で、Oが②5～9分29%、③10分から29分23%と短時間の装着が多かったが、⑥2時間以上の装着も12%あった。Mは、おむつを2時間以上装着していたが42%で、年齢は20歳代から50歳代までと偏りは見られなかった。2時間以上装着していた人は、リアルな体験として、装着から排泄時の移り変わる気持ちの変化を記載していた。

表2 排泄できなかった理由

A	O	M
<ul style="list-style-type: none"> <li>・恥ずかしくて嫌だった。</li> <li>・漏れそうで不安だった。</li> <li>・どうしても出なかった。</li> <li>・違和感があり、できなかった。</li> <li>・排泄できるという意識ではない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ごわごわして気持ちわるかった。</li> <li>・違和感があり、できなかった。</li> <li>・どうしても出なかった。</li> <li>・身体が拒絶した。</li> <li>・ももごしていて、トイレはしたいけどおむつにできなかった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・抵抗感が強くて出せなかった。</li> <li>・漏れないか不安だった。</li> <li>・出したくても出せなかった。</li> <li>・違和感があった。</li> <li>・着け心地が悪く気になって排泄できなかった。</li> <li>・意識しすぎてなかなか排泄できなかった。</li> </ul>

問7 排泄場所は、トイレでしたが最も多い。おむつを装着した時の気持ちからも、おむつへの排泄に違和感が強いが、違和感や抵抗感は、年齢に関係ないことが明らかになった。

問9 おむつ装着体験2回以上の人のお気持ちの変化は、排泄はできたものの装着時の状況の変化は「1回目と変わらずおむつにしたくない」や「回数を重ねるうちに慣れ

てきた」と何回してもおむつに抵抗のある人と、慣れてくる人とおむつ装着への思いの違いがあった。このことは、はじめは抵抗感があっても、おむつに慣れてしまうことで、おむつへの排泄が良いという気持ちになってしまうことが示されたのではない。

問13 利用者の気持ちが理解できたかでは、学生の70%から100%で理解できたと回答している。さらに問14のおむつを装着した時の気持ちとして①パンツの方が良い、②気持ち悪い、③排泄の時は外してほしい、④排泄はトイレ誘導してほしい、⑤排泄したらすぐ取り換えてほしい、の5項目の中では、①のみは7名、②のみは5名、③のみは1名、④のみは1名、⑤のみは3名、その他①から⑤の複数回答が45名で、①から⑤の全てを選択した人が11名で最も多かった。

問15 おむつを装着した時の気持ちは、表3の記載通りで、おむつ装着に違和感や不快感があり、「高齢者は我慢しているのだろう」と高齢者の気持ちを推し量る機会となった学生もいた。さらに、おむつ装着体験は、「羞恥心が強く、大人としての尊厳が失われる」との記載もあった。「最初は排泄するときに抵抗があったけど、だんだんとトイレに行く気力すら抜けていく感じでした」と、おむつ装着に慣れることで、「トイレに行かなくてもよい」と言う気持ちになっていくこと、おむつを着けたまましていると、「自立しようとする心がなくなってくる」（問19）ことも経験として示された。

表3 おむつを装着した時の気持ち

A	O	M（一部掲載）
<ul style="list-style-type: none"> <li>・不快感がある。</li> <li>・違和感。</li> <li>・はずかしかった。</li> <li>・最悪の気分。</li> <li>・モコモコして気持ち悪い。</li> <li>・気分が悪かった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・違和感があり気持ち悪い。</li> <li>・はずかしい。</li> <li>・普通のパンツより厚さも大きさもあったので、ごわごわしているように感じ、あまり良い感触ではなかった。</li> <li>・おむつは落ちていて排泄ができないことに気が付いた。</li> <li>・子どものころしていたのに、この歳になると恥ずかしくなってしまった。おむつの利用者も同じ気持ちかもしれないと思った。</li> <li>・最初は排泄するときに抵抗があったけど、だんだんとトイレに行く気力すら抜けていく感じでした。</li> <li>・気持ち悪く、拭くことができないので不快だった。</li> <li>・慣れないので落ち着かなかった。</li> <li>・漏れないか不安だった。</li> <li>・おむつがフィットしない。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・気持ちが悪く全体的にごわごわしてとっても暑かったし、恥ずかしい。</li> <li>・大人としての尊厳が失われた気がした。</li> <li>・はいた状態での排泄は何回できたとしても慣れたくはありません。</li> <li>・初めての体験だったので、正直ドキドキワクワクな面がありました。だけど、これがずっと続くとなると、これから先がとてもなく長く感じるだろうなと思いました。</li> <li>・自分の尿がこんなに暖かいものとは思わなかった。ずっとしているとこんなに気持ち悪いものとは思わなかった。</li> <li>・利用者の方々はガマンしているのだとつくづく思った。</li> </ul>

問17 おむつ装着時の皮膚の変化は50%以上の人がないと答えている。しかし皮膚の変化があった人は、以下の変化があったと報告している（表4参照）。

表4 おむつ装着時の皮膚の変化

かゆくなった。	11名	かぶれそうになった。	2名
蒸れてしわがで、ふにゃふにゃになった。	7名	かゆくなった、湿疹ができた、かぶれそうになった。	1名
かゆくなった、かぶれそうになった。	1名	かゆくなった、赤くなった、かぶれそうになった。	1名

問18 おむつ装着体験は、利用者の尊厳について考える機会になったかでは、Aが94%と最も高く、Oが87%、Mが64%であった。「いいえ」や「無回答」の人の中には、よくわからないと答えている人もいた。

問19 おむつ装着体験が利用者の尊厳について考える機会になった理由としては、表5の通りである。

表5 おむつ装着体験が利用者の尊厳について考える機会になった理由

A	O	M
<ul style="list-style-type: none"> <li>・トイレでできないからと言っておむつを使用するというのは違うかなと思った。</li> <li>・オムツを勤めてしまうがパンツでも生活できるようにする。</li> <li>・変えなかったら気持ち悪いと感じた。</li> <li>・プライバシーの保護。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本当に寝たきりになってしまった人が排泄することでの苦痛があるのだと思った。</li> <li>・今まで穿いてきたパンツから急に紙おむつに変えることは勇気がいることだと思った。</li> <li>・利用者のおむつの利用は最終手段としないと利用者のプライドを傷つけると感じていた。</li> <li>・おむつは思ったよりも違和感があり、つけたばかりの時は嫌な気持ちになったり恥かしさがあったので、心の負担があり、そこをなるべく感じさせないようにカバーしていく必要があると考えた。</li> <li>・おむつをつけた時の恥ずかしい気持ちは、高齢者の尊厳を傷つけることになると考えました。</li> <li>・おむつをつけたまましていると自立をしようとする心がなくなってくる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おむつに排泄するときでも、周りには人がいない状態の方が良いと思った。</li> <li>・すぐに交換してあげることが大切だと思った。たかがおむつと思っていたが、すごい重要だと思った。</li> <li>・なるべく早目におむつ交換してあげたい、オムツを使用しなくても良い体調に戻してあげたい。</li> <li>・できないことが増えても気持ち悪いなどは当たり前前に感じる事なので、人が人として生きている間はみな平等だと思った。</li> <li>・おむつを着ける人の気持ちがわかったので、十分な配慮や気持ちのケアが必要だと感じた。</li> <li>・パンツに漏らしてでもパンツの方がいい人、オムツをはいても排泄はトイレでしたい人、トイレに行くのがめんどうでおむつがいい人など、人それぞれ価値観やプライドなど見抜く力が必要で、その人にあった形態にできるだけ近づけるように介護することの大切さ、その人らしい、尊厳の意味が少し感じ取れた気がしました。</li> <li>・オムツを装着しているのだから、すぐに交換しなくてもいいと思っていたので、あんなにおしりが気持ち悪いと思っていなかったもので、早く取り換えてすっきりしてもらいたいと心から思いました。</li> <li>・大人として何かはずかしいと感じたのでこのような思いを利用者にさせてはいけないと思いました。</li> </ul>

問20 おむつ装着体験学習は、今後も続けた方が良いかでは、OとMは、「はい」が80%から90%であったが、Aは、50%であった。Aの「いいえ」の回答理由は、体験したい人だけが実施すればよいと記載があった。また、「いいえ」と答えた学生は、問24においても、「おむつに排泄することに抵抗があったので二度としたくないと思った」の選択をしている。

問21 おむつ装着体験を今後も続けた方が良い理由は表6の通りである。

表6 おむつ装着体験を今後も続けた方が良い理由

A	O	M
<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の気持ちがわかる。</li> <li>・気持ちを考えられる。</li> <li>・いい経験。</li> <li>・ためになる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の気持ちを理解することができ、より良い介護に繋がると思うから。</li> <li>・利用者の気持ちを忘れないため。</li> <li>・自分も体験することで、おむつを装着している人と接するときに相手の気持ちを考えた言動を行えるとおもった。</li> <li>・利用者の方の不快感や嫌悪感を実際に体験してみないと分からないから。</li> <li>・普段ははかないおむつをはくことによっておむつが必要な人の気持ちに寄り添えることができるから。</li> <li>・高齢者の気持ちを考えるうえで、体験学習は必要だと思いました。</li> <li>・このような体験はこの時ぐらいでしか出来ないと思うから。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・おむつをしている人の気持ちが理解できた。もっと突っ込んで理解を深めるなら、おむつの交換を家族やパートナーの方にやらせてもらえたらよりリアルな体験になると思います。</li> <li>・体験してみないとわからないことがたくさんあると思ったため。介護の面だけでなく、自分自身のことを考えるきっかけになったため。</li> <li>・業務としての理解がなく、体験できるものは何でも体験した方がいいケア、介護される方々の理解に繋がると思う。</li> <li>・想像以上に排泄後ずっしりおむつが重くて居心地が悪かったので体験しないと分からなかったので良い経験になって現場で相手の気持ちになれると思いました。</li> <li>・身体に障害のある人や高齢者が快適に排泄ができるように多くの方が体験し、考えていった方が良いと思います。</li> <li>・今後、介護の仕事をする上で利用者目線で少しでも見れるようになる事はとても重要なことだと思いました。</li> </ul>

問22 おむつ装着体験の課題を出された時の気持ちについては、①勉強になるので体験したい、②高齢者の気持ちがわかるかもしれないと思った、③高齢者の気持ちを理解するため仕方がない、④課題なので仕方がない、⑤絶対に体験したくないの選択において、Aは、⑤絶対に体験したくないが31%で最も多く、無回答も23%であった。Oは、②高齢者の気持ちがわかるかもしれないの50%が最も多く、④課題なので仕方がないが23%であった。Mは、各項目にわたり様々に回答し、無回答はなかった。A、O、Mとも「課題なので仕方がない」と応えている人もいることから、おむつ装着体験は、「やらされている」意識を持つようである。一方、問23の「お

むつ装着体験で、高齢者のおむつ装着に関しての意識が変わったか」では、「はい」と答えている人は、A69%、O82%、M92%で、意識の変容があったことを示している。意識の変化は、初めはやらされていると思っていた気持ちが、今まで経験したことの無いおむつ装着に対しての違和感から、学びに繋がる新たな思いが出てきたようである。

問24 「おむつ装着体験をしたことの意識」の結果は表7の通りである。複数回答可であるため項目の選択には、ばらつきが見られた。

A、O、Mとも①と②を選択する人が多いのは、学生として、施設実習での高齢者支援への学びに結び付けられているのではないかと。項目の⑨自分はおむつをつけるようになるまで生きていたくないと思った、を選択しているのは、Oが2名、Mは5名であった。⑨を選択した人の中には、問26で、おむつに排泄している高齢者がおむつをはずして排泄できるようになるのは難しいと思うかの問いで、「はい」と答えている人が5名いた。Aの⑩おむつに排泄することに抵抗があったので二度としたくないと思った、を選択した人は、問23で「おむつ装着体験から意識の変化がなかった」とも答えている。

表7 おむつ装着体験をしたことの意識

項目	A 人数	O 人数	M 人数
①今後の実習や援助に生かせる	5	7	19
②高齢者の気持ちがわかった	6	7	19
③自分自身の問題として考えられた	1	2	9
④おむつに対する倫理的問題を考えるきっかけになった	2	6	9
⑤高齢者のおむつ装着は仕方がない	0	2	2
⑥おむつは絶対に着けたくないと思った	3	5	10
⑦福祉の専門家として、もっと利用者の排泄について考えるべきだと思った	1	4	10
⑧これからもおむつ装着体験を通して高齢者の気持ちや尊厳について考えていくべきだと思った	1	4	10
⑨自分はおむつをつけるようになるまで生きていたくないと思った	0	2	5
⑩おむつに排泄することに抵抗があったので二度としたくないと思った	2	0	3
⑪その他	0	0	1
(無回答者)	1	0	0

問25 「おむつ装着体験は、高齢者のおむつをはずす支援の理解に繋がったか」では、3名が「いいえ」と答え、その内2名は、おむつ装着体験を「課題なので仕方がない、絶対に体験したくない、高齢者のおむつ装着に対しての意識も変わらない」と答えていた。

問27 「高齢者のおむつをはずす支援のために必要と考えられること（複数回答可）」で学生は、項目の複数回答をしている人が多いが、項目ごとに分けると表8の通りである。

Aは、①から④に集中しているが、OとMは、各項目の選択にバラつきが見られる。特に着目したいのは、⑤高齢者がおむつをすることについて何が問題なのかわからないと、⑨職員が忙しければ他の職員もトイレ介助を助けるべきであるである。⑤については、Oは1名、Mは13名であり、⑨はMが22名と項目の中でも最も多くの人を選択している。社会人経験のある学生が、現役の学生より⑤と⑨を選択している。⑩その他には、「介護の人手不足など、全体で考えるべき」、「何のためにおむつが必要なのかを考える、おむつをはずす事で利用者さんの生活がどういう意識に変わるのかを考えて自立支援に繋げてほしい」との記載があった。

表8 高齢者のおむつをはずす支援のために必要と考えられること

項目	合計 人数	A 人数	O 人数	M 人数
①学生のうちに介護の基礎知識を付けておく必要がある	35	7	14	14
②学生のうちに基礎技術力をつけておく必要がある	24	4	10	10
③高齢者の気持ちをもっと理解する必要がある	33	4	11	18
④おむつ外しという言葉を初めて聞いたので、詳しく学ぶべきだと思う	19	3	4	12
⑤高齢者がおむつをすることについて何が問題なのかわからない	14	0	1	13
⑥快適なおむつもあるので、おむつの性能を考えればよいと思う	12	0	5	7
⑦多職種と話し合っ決めていくべきだと思う	16	1	6	9
⑧どんなに忙しくてもトイレにつれていくべきである	20	0	6	14
⑨介護職員が忙しければ他の職員もトイレ介助を助けるべきである	23	0	1	22
⑩その他	2	0	0	2

## 5. 考察

介護福祉士養成校の2年生14名、社会福祉士養成校の1年生17名、介護職に就くために学んでいる社会人経験のある学生34名を対象とした調査であるが、介護福祉士養成校の学生は、無回答も多く、おむつへの排泄はできなかったと回答している割合が多かった。装着時間も短く、おむつ装着体験も「二度としたくない」、「したい人だけがしたらよい」と、おむつ装着に対し違和感が強く、前向きに取り組めなかった学生が多いのではないかと考える。社会福祉士養成校の学生は、おむつに排泄ができた人とできなかった人の割合は半々であり、装着時間は、すぐ外してしまった人から2時間以上装着していた人まで様々であった。おむつ装着体験に対しては、すぐ外してしまった人も、よい経験として前向きに捉えられており、おむつ装着体験で恥ずかしいと思う気持ちから、高齢者の尊厳を考える機会へと繋げることができたのではないかと考える。社会人経験のある学生は、おむつへ排泄

ができた人が多く、装着時間も2時間以上が42%と最も多かった。社会的に経験もあり、介護の仕事をしようと転職を考えている学生ゆえに、体験を学びの経験として捉えようとしている傾向があるのではないかと考える。それは、おむつ装着を自分の事として考えると共に、高齢者の気持ちを推し量り、よい介護に繋げるには「早く取り換えることである」など、自身の考えたことや感じたことの記載からも窺える。一方、社会人経験のある学生でも、「おむつを着けるようになるまで生きていたくない」と、おむつ装着に対して拒否的に捉えている学生もいることは、やむをえずおむつを着けている高齢者への前向きな介護の工夫がされにくいのではないかと考える。さらに、年齢が19歳から20歳の学生は、後藤ら<sup>4)</sup>が調査報告をされているように、おむつへの排泄に対して抵抗感や嫌悪感が強く、人生経験も浅いことから、おむつ装着経験を通し、高齢者の排泄ケアの質の向上へと繋げていくイメージが掴みにくい傾向があるのではないかと考える。おむつ装着体験で、「おむつ装着は、自分が思っていたイメージと違っていた」と記載している学生も多く、何事も体験して理解できるので、これからもおむつ体験は必要であると記載されていることから、体験学習の必要性は高いと考える。体験から自分の子供の頃のことを思い出す学生もおり、おむつ装着に慣れずに必要なケアをより快適にするために、専門職としてどうすれば良いかと考える機会になったのではないかと推測される。今後、おむつ装着体験への思いを、質の高い排泄介護への学びに繋げていくためには、グループワークなどで、おむつ装着体験を通した高齢者の排泄ケアのあり方を検討していくことが、より深い学びに繋がると考える。

## 6. おわりに

本研究では、介護福祉士養成校の学生、社会福祉士養成校の学生、介護職に就くために学んでいる社会人経験のある学生のおむつ装着体験から学びの比較検討を行った。調査結果では、おむつ装着体験は課題である為仕方なく実施した学生も、おむつ装着による違和感や羞恥心が大きかったことが、体験前のイメージと違っていたことから、高齢者がおむつを着けることも普通の事として捉えてはいけないことだと思えたようである。おむつ装着体験からは、おむつ使用は最後の手段であることの理解を深め、たとえおむつを着けていても、尿意があれば、排泄間隔を調べ、おむつ外しができるよう試みる必要があることを、専門職者として考えなければならないことを学び取るのが重要である。高齢だから仕方がないと思えるのではなく、他人に見られたくない排泄のケアを受ける人の羞恥心を理解し、本人が望む排泄ケアのあり方を模索していくこと。自立や尊厳を守るとは何かを考え、より質の高い介護を目指すために、体験を通した学びを深めて行くことが必要である。今回の調査でも、おむつ装着は、「違和感」、「羞恥心」など先行研究<sup>5) 6)</sup>が報告している状態がどの学生にも見られた。さらに現役の学生より、社会人経験のある学生の方が、おむつ装着体験をより身近にとらえられていることが示された。また、介護職員の忙しさを意識しているのか、他の職員のトイレ介助を助けるべきであるとの回答も多いことから、

自他ともに助け合うことを求めていることが示唆されたのではないか。介護は、多職種と連携・協働してなされることから、快適な排泄ケアやおむつ外しについても、介護に関わる専門職それぞれの知識や技術、そしてケアに対する意識が、良い排泄ケアに繋がることを理解しなければならない。

本調査では、介護福祉士養成校の学生のおむつへの排泄ができない原因やおむつ装着に関心を向けられない原因を探ることができなかつたので、今後の研究で明らかにしていきたい。

## 7. 今後の課題

おむつ装着体験から明らかにされた学生の「高齢者がおむつをすることについて何が問題なのかわからない」の項目を選択した意図を探る必要がある。さらに介護福祉士養成校の学生の意見の少なさや、おむつへの排泄ができないことの原因を探る必要がある。介護福祉士という専門職を目指して学ぶ学生のおむつに関して前向きにとらえられない要因は何かを探り、排泄介護の授業内容を検討していく必要がある。

## 引用文献・参考文献

- 1) 医療と介護を取り巻く現状と課題（参考資料）中医協 総2－参考
- 2) 倉鋪桂子、永田寿子ほか「介護老人福祉施設における介護職者のケア認識発展のプロセス—おむつに関する排泄ケアを通して—」宇部フロンティア大学看護学ジャーナル Vol3、No.1 2010
- 3) 山本君子、内山淳子 老年看護学におけるおむつ装着体験からの学生の学び—おむつ装着中の高齢者への援助方法— 東京医科大学看護専門学校紀要 第18巻1号 p.35 - 44 2008
- 4) 後藤光枝 内野秀哲 実習経験が学生の排泄介護意識に与える影響 仙台大学紀要 Vol.46、No.2 p.47-59 2015
- 5) 松尾壽子、八田勘司「おむつ体験」学習の検討 第一福祉大学紀要第3号 p.199 - 206 2011
- 6) 井上理恵「尊厳」を支える排泄介護のあり方～学生の「おむつ体験」に関する調査からの一考察～ 富山短期大学紀要第47巻 p.93 - 102 2011





